



## 3月31日 千種のミニ歴史館

今回で3回目となる千種地区の歴史講座は、平成最後の年にあたり、地域の生活関連資料をテーマとした展示解説を企画しました。江戸時代の末期の地域活動(町会活動)や防犯道具や防災活動。明治期の年中行事や西の市、消防団活動、相撲などの興行願い申請書、大正期～昭和期は千種地区の生業と生活に関する資料、戦時期では戦間様のプロペラや出征兵士の寄せ書きなど多数展示します。  
新しい時代を前に私たちの祖先が一体どんな暮らしをしていたのか考える機会にできればと思います。

実施日時:平成31年3月31日(日)午前9時30分から午後12時30分まで  
実施場所:千種コミュニティセンター1階 多目的室1・2  
参加費:500円(資料代として当日徴収)  
募集人数:先着100名  
参加申込:千種コミュニティセンター窓口か電話で受付(午前9時から午後5時まで)

講師 鎌倉街道を歩く会

- ① 斎藤 和夫 氏(埼玉大学非常勤 講師)  
主題:『山本五十六探検の戦艦機プロペラと戦争関連資料』
- ② 辻井 義輝 氏(元東洋大学非常勤 講師)  
主題:『千種地区の歴史と文化』
- ③ 鎌田 誠 氏(千葉県立生涯高等学校 教諭)  
主題:『松ヶ島永井家所蔵品』



【松ヶ島永井家所蔵の出征兵士の寄せ書き】  
記名された名前から太平洋戦争に出征した千種地区の住民の寄せ書きであることがわかる。出征兵士の関係者の寄せ書きの氏名から松ヶ島出身の兵士であったことはわかるが、日付・種が持ち帰ったのかかわらない。また、出征先は軍の機密事項であったために記載されていない。



【山本五十六の書を刻わプロペラ(昭和18年当時の姿)】

### 資料2 「鎌倉街道を歩く会」の公民館活動 千種コミュニティだより抜粋

③「生涯教育の場の提供」…市民大学講座 『歴史文化リエゾンコース』(市民学芸員養成講座)の文化財マップ作成講座は本会代表の小関が講師を務め、鎌倉街道をテーマとしてフィールドワークを実施(資料3)した。



資料3 市民大学の鎌倉街道のフィールドワーク 二子塚古墳 2019/06/29

# 千種コミュニティだより

発行・編集 NPO 法人千種地区まちづくり協議会  
市原市千種 2-1-2 TEL:26-1515 FAX:26-0505  
URL: [https://www.city.kichihara.chiba.jp/shisetsu/comyu/shisetsu\\_chigusa/index.html](https://www.city.kichihara.chiba.jp/shisetsu/comyu/shisetsu_chigusa/index.html)  
第91号 (2020年2月)

## 千種の生活史を知る 歴史講演会

実施日時:令和2年2月29日(土)午前9時30分から午後12時30分まで

実施場所:千種コミュニティセンター多目的室1・2

参加費:500円(資料代)

募集人数:先着50名

参加方法:千種コミュニティセンター窓口または電話(0436-26-1515)にて申込受付

申込期間:令和2年1月18日から受付開始、午前9時から午後5時まで

講師:鎌倉街道を歩く会 小関勇次、鎌田誠

内容:

- ① 「埋立てによる千種の浜の姿容」
- ② 「千種の生活史 松ヶ島永井家所蔵品」
- ③ 松ヶ島 永井家・斎藤家所蔵品の展示解説

およそ60年前までの千種は半農半漁の村でしたが、他の地域に比べ付加価値の高い漁業と農業が特色でした。例えば海浜地区の松ヶ島・青柳・今津地区は漁業を生業としていましたが、海苔や青柳などを特産としていましたし、白塚・柏原・島野は古養老川の運んだわずかな微高地(自然堤防)が果樹栽培に適し梨やイチジクを特産としていました。

ところが、1960年代の高度経済成長期を迎えると、東京湾岸の埋立て事業に協力することとなり、漁業権を放棄しました。美しい千種の浜は姿を消し、石油化学コンビナートを中心とする京葉工業地帯が造成されたのは周知のことです。また、東京への近接性から住宅開発が進みます。青柳から松ヶ島までの水田地帯と朝山小学校周辺の耕地は分譲住宅地と賃貸集合住宅に一変しました。ここに千種の生業は終了することとなり住民は転業を余儀なくされ、生活環境も大きく変わりました。

埋立てから60年の月日は流れ、遠浅の美しい浜辺の面影はありません。新しく千種に転入された方や若年層には昔の千種の生業など全く想像できないと思います。今回の千種の歴史講演会のテーマは「千種の生活史」です。私たちの郷土千種について生活の現場で歴史をたどり、先人達の生業と暮らしぶりを学ぶ機会としたいと思います。みなさんと共に、千種の過去を学び、千種の未来を創ることを一緒に考えてみませんか。

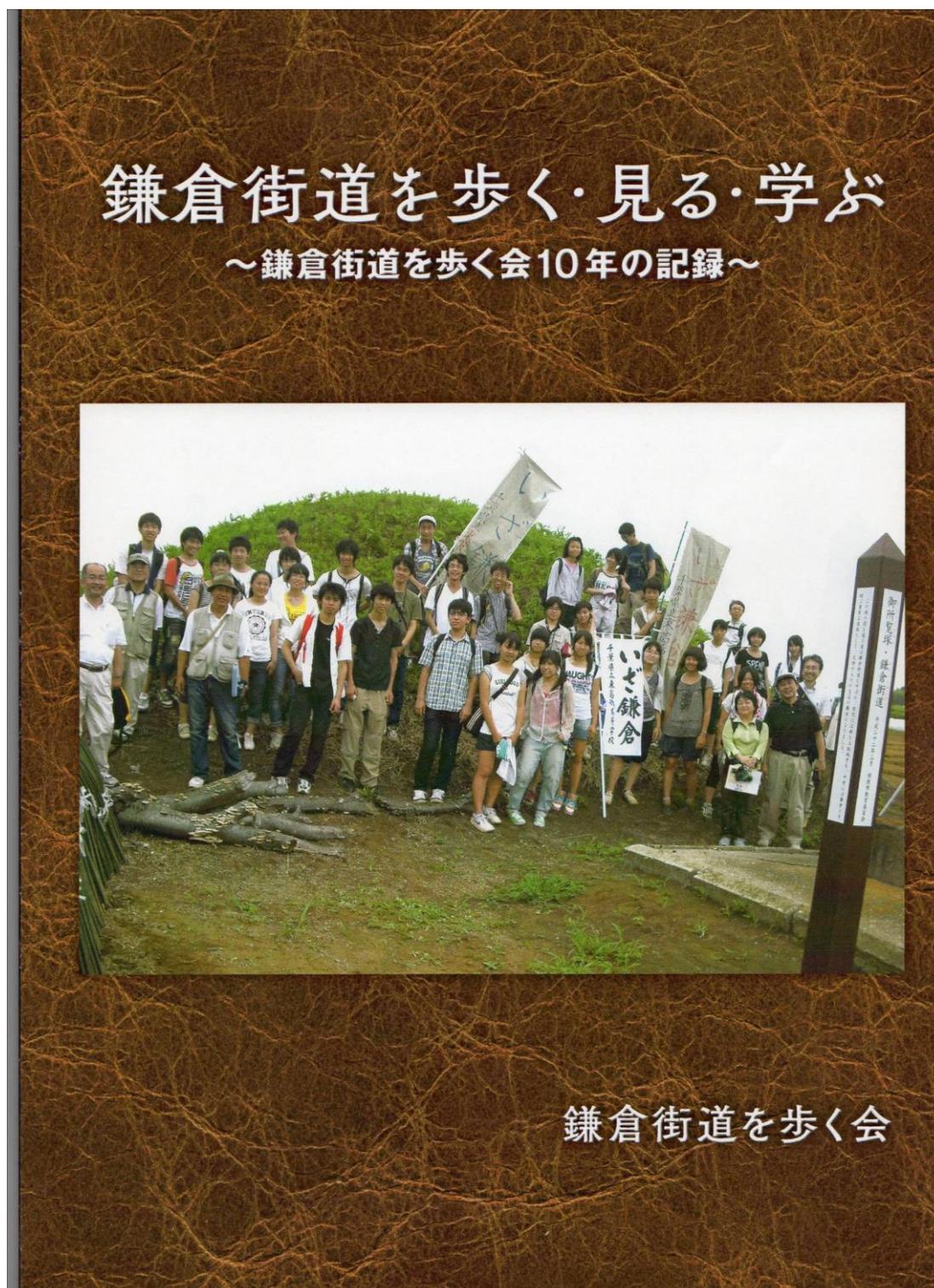


写真:アバリ・コマ 海苔網を織る漁具 松ヶ島 斎藤義輝氏所蔵

### 3 活動の成果（公益活動支援補助事業の支援の成果）

今回の公益活動支援補助事業の最大の成果は、研究誌『鎌倉街道を歩く・見る・学ぶ』を2020年3月10日に発行（資料4）できたことである。本会の10年間の活動記録をまとめ、市民が郷土に親しめる内容であること、学校においては郷土史の教材と成り得る内容を盛り込んだ。

市内の小中学校及び公民館・図書館等に約100部を年度末までに寄贈することができた。



資料4 『鎌倉街道を歩く・見る・学ぶ』・A4判127頁 定価2,500円+税 ISBN978-4-600-00361-6

- 4 補助金の使途（明細） 補助金の使途は以下とおり。
- |     |                    |
|-----|--------------------|
| 製作費 | 487,000円           |
| 補助金 | 300,000円           |
| 不足分 | 187,000円（団体会計より支出） |

5 活動総括（今後の活動計画や事業展望）

【令和二年度】

- ① 刊行された研究誌の寄贈・配布 3～4月
- ② 公益活動支援補助事業の結果報告 4月
- ③ 公民館・コミュニティセンターの主催事業、市民大学などの活動 4月～3月  
新型コロナウイルスの感染拡大の影響が危惧される。

【新たな展開】

京葉銀行広報誌の発行（資料5）があげられる。千葉の魅力を県内外にアピールするシリーズで、市原市では歴史の百選に選ばれている「鎌倉街道上総路」が取り上げられ、取材と資料提供に協力した。

その他、地域町会行事との連携、市外からの講座・講演・フィールドワーク等の依頼等があり、活動範囲は拡大傾向にある。



「歴史の道百選」に指定された、市原市と袖ヶ浦市をつなぐ鎌倉街道上総路。

文化庁が、歴史的・文化的に重要な由緒を有する古道・交通関係遺跡を「歴史の道」として、その保存と活用を広く国民に呼び掛け、顕彰するために、1996年（平成8年）に全国各地の最もすぐれた「歴史の道」78か所を「歴史の道百選」として選定しました。

2019年（令和元年）10月に追加選定を行い、新たに36件が追加され、「歴史の道百選」は114件となりました。

県内では新たに「利根運河（野田市・流山市・柏市）」が選定されました。



鎌倉街道を歩く会  
事務局長 青木 三郎さん

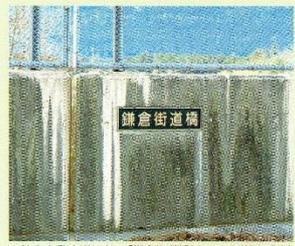
文化庁の「歴史の道百選」に指定されている「鎌倉街道上総路」は、市原市立野から袖ヶ浦市下新田に至る約10kmの古道です。周辺には関連した地名「市原市立野学鎌倉街道」など約10kmの間に鎌倉街道を伝える地名が多数点在しています。

鎌倉街道とは各地より鎌倉に至る道路の総称で、関東にいくつも道が残っています。鎌倉街道の名称から「いざ鎌倉」のための道として表現されることが多いのですが、実際にはこの地域の物資を三浦半島へ運ぶ流通のための役割も大きかったようです。鎌倉街道という呼び名は、中世（鎌倉時代～室町時代）にはまだなく、江戸時代から使われるようになり、中世の人たちは「鎌倉道」「上道」「中道」「下道」「武蔵路」「奥大道」などと呼んでいたことが、当時の様子を記した「太平記」や「吾妻鏡」などの史書からわかります。

この「鎌倉街道上総路」が鎌倉街道であることの根拠は、1932年（昭和7年）に郷土研究家の小熊吉蔵氏がまとめた研究書によるもの。その後、埋蔵文化財センターの発掘調査も行われ、道路跡や轍<sup>ワダチ</sup>跡、土手、住居跡なども発掘されました（山谷遺跡）。

現在、私たち「鎌倉街道を歩く会」では、鎌倉街道上総路をはじめ、地域の歴史的な遺産を歩き訪ねる活動を定期的に行っています。

※轍（わだち）：車の通ったあとに残る車輪の跡。（中世の時代／車→馬車や牛車）



鎌倉街道橋

▲麓山自動車道に架る「鎌倉街道橋」（袖ヶ浦市）



▲今も街道沿いに残る示道標（石遺物）（袖ヶ浦市）



鎌倉街道上総路